

はまゆうの風

校長室から

2020.5.25 発行

第1号

和歌山県立
はまゆう支援学校
校長 稲田進彦

学校再開に向けて

分散登校始まる

約三ヶ月間の臨時休業期間を経て、いよいよ学校再開が近づいてきました。本校では、5月25日(月)から縦割り分散登校を始め、徐々に本格的再開に向けて進めて行く予定にしています。初日は、小学部低学年・中学部1年・高等部1年の子どもたちが午前中のみ登校しました。入学式以来の久しぶりの登校だったため、スクールバスは初めてだったり、戸惑いを見せながらも、元気に過ごしてくれました。

学部ごとに「始まりの集い」を体育館で行いました。前後1.5m位の距離をとって座りました。また、広いグラウンドをいっぱい使いながら、先生とサッカーを楽しむ姿がみられました。ソーシャルディスタンスはばっちりでした。

感染を拡げないために・・・ 感染予防 手作りグッズの活用

5月に入ってから、和歌山県内では陽性者ゼロの日が続ぎ、ついに14日には緊急事態宣言が解除され、21日には営業自粛もさらに解除されました。

とはいえ、気を抜くと、再び感染が広がってしまう危険性も指摘されており、また、報道等では第2波・第3波が心配だとの声も聞かれます。

本校では体調不良や発熱者が出た場合、玄関横の「相談室」を専用の部屋として準備しています。他にも3つの部屋を順次使用する予定です。

また、感染を予防し、拡大を防ぐため、対応する職員については、フェイスシールドや防護着を着用することになっています。なお、これらの防護用具はすべて手作りです。フェイスシールドは、透明プラスチックシートから組み立てたもの。防護着は、ゴミ袋を裁断し養生テープで仕立てたものです。保健室の先生方が中心になって作ってくれました。

このように、手近にあるものを活用して、感染症対策を進め、安心・安全な学校生活を守っていきたいと考えています。

